

2014年度自己点検・評価報告書(シート)

【目標の進捗状況(達成度)評価・報告】(最終年度)

《大学》

担当(記述)部局は、 ☆印の箇所を記入してください。

I. 評価項目・要素と担当部局

本報告書(シート)の自己点検・評価項目・要素と担当部局は次のとおりである。

対象部局	神学研究科
大項目	5 学生の受け入れ(研究科)
中項目	
小項目	5.0.1 学生の受け入れ方針を明示しているか。
要素	求める学生像の明示 当該課程に入学するにあたり、修得しておくべき知識等の内容・水準の明示 障がいのある学生の受け入れ方針
小項目	5.0.2 学生の受け入れ方針に基づき、公正かつ適切に学生募集および入学者選抜を行っているか。
要素	学生募集方法、入学者選抜方法の適切性 入学者選抜において透明性を確保するための措置の適切性
小項目	5.0.3 適切な定員を設定し、学生を受け入れるとともに、在籍学生数を収容定員に基づき適正に管理しているか。
要素	収容定員に対する在籍学生数比率の適切性 定員に対する在籍学生数の過剰・未充足に関する対応
小項目	5.0.4 学生募集および入学者選抜は、学生の受け入れ方針に基づき、公正かつ適切に実施されているかについて、定期的に検証を行っているか。
要素	

II. 目標の進捗状況(達成度)評価と報告【2014.4.30現在】

《進捗状況(達成度)評価》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定し、毎年度進捗状況(達成度)の自己評価を行っている。進捗状況(達成度)評価は、目標の2014年4月30日現在における進捗状況(達成度)の評価(2013年度1年間の活動評価ではなく、2014年4月30日現在で目標がどこまで進んだかの評価)であり、A、B、C、Dの4段階で行ったものである。A、B、C、D評価の基準は目安として次のようなものである。

- A : 目標実現のための計画や方策などを適切に実行し、目標を達成している。もしくはほぼ達成している。
- B : 目標実現のための計画や方策などを概ね適切に実行しているが、まだ目標は達成していない。
- C : 目標実現のための計画や方策などを実行しているが十分ではなく、目標は達成していない。達成にはまだしばらく時間がかかる。
- D : 目標実現のための計画や方策などを実行していない。当然目標は達成していない。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗状況(達成度)評価				
		2009	2010	2011	2012	2013
1. 神学研究科の理念・目的の中で表されていたアドミッション・ポリシーを明文化する。	→アドミッション・ポリシーの明文化(2011年度入試実施までに)	B	B	A	A	A
2. アドミッション・ポリシーに基づいて、個別入試制度(一般、社会人、外国人留学生)で募集する入学者像を明確にする。	→個別入試制度で期待する入学者像の明示(2012年度入試実施までに)	C	C	B	B	B
3. アドミッション・ポリシーに照らして入学者選抜を検証する制度を構築する。	→既存の入試検討委員会における検証および研究科委員会に対する報告書の作成(2011年度入試より)	C	C	C	B	B

2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	2009	2010	2011	2012	2013
	→					
	→					

《進捗状況(達成度)報告》 担当(記述)部局は「指標」に基づいた報告をしてください。

上記で自己評価した目標の進捗状況(達成度)について、次のとおり説明・報告する。

目標1	A	Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、誰が、どのようにして、どれだけ取り組んできたか 入試検討委員会(研究科)での検討を経て、研究科委員会においてアドミッション・ポリシー(学生の受け入れ方針)を策定し、明示した(2011年度)。2011年度以降、研究科のウェブサイトや募集要項、『履修の手引き』にて公開している。 ☆
		Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か アドミッション・ポリシーを明文化し、公開したことによって、(他学部生を含む)学生や教員に対して、求める人物像が明示され、アドミッションポリシーを意識づけることができた。 ☆
		Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か 入試検討委員会(研究科)において、実際の受験者から提出された志望理由書等を検討する作業を通して、ポリシーの浸透度合いや、それがどのように理解されているかについて確認することが必要であると考えられる。 ☆
		その他 ☆

目標2	B	Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、誰が、どのようにして、どれだけ取り組んできたか 上記の通りアドミッション・ポリシーを明示したことと合わせ、2013年度入試検討委員会(研究科)において、当該ポリシーが示す要素と、一般入試、社会人入試、外国人留学生入試の各入試制度での、志望理由書、論文試験、語学科目試験、面接試験等との対応関係について明確化すべく、入試における試験の検討に入っているが、明示するに至っていない。	☆
		Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か 上記の目標1と同様に、受験者への理解が増した点については評価できる。アドミッション・ポリシーと各入試制度において実施されている試験との間の対応関係については、多様な能力を持つ者をより幅広く受け入れるためにも募集方針の要素を見直す必要がある。	☆
		Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か 2014年度中に、入試検討委員会(研究科)においてポリシーと入試制度との対応関係を具体的に検討し、明示することを目指す。	☆
		その他	☆
			☆
目標3	B	Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、誰が、どのようにして、どれだけ取り組んできた 2013年度までに、入試検討委員会(研究科)、研究科委員会において、入学者選抜制度をアドミッションポリシーとの関連から検討することを始めているが、具体的な制度の構築までには至らなかった。なお、アドミッション・ポリシーの内容をよりはっきりと示すために、2015年度入試(2014年度実施)より、後期課程(一般および外国人留学生)の募集要項において、出願資格の注意事項に「出願資格による修士の学位および専門職学位は、キリスト教神学に関連する研究に対して授与されたものに限る」旨の文言を加えた。	☆
		Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か アドミッション・ポリシーに照らしての入試の検証は始まっている。ただし、具体的な制度の構築には至っていない。	☆
		Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か 2014年度中に、アドミッション・ポリシーに基づいて入学者選抜制度を検討する制度の構築を目指す。	☆
		その他	☆
			☆
備考			☆

《評価指標データ》

(特定項目データ)本項目は数値的なデータによる評価(現状分析)が可能のため、次のとおり指標を定め経年比較している。

【神学研究科】		前期/後期課程	単位	2010	2011	2012	2013	2014	備考
指標1	入学定員	前期課程	名	10	10	10	10	10	・5/1現在
		後期課程		2	2	2	2	2	
指標2	志願者総数	前期課程	人	19	23	19	16	12	・当年度は5/1現在 ・前年度以前は秋学期入学を含める
		後期課程		2	1	2	2	4	
指標3	合格者数	前期課程	名	11	12	7	10	9	・当年度は5/1現在 ・前年度以前は秋学期入学を含める
		後期課程		2	1	2	1	2	
指標4	入学者数	前期課程	名	11	11	7	10	9	・当年度は5/1現在 ・前年度以前は秋学期入学を含める
		後期課程		2	1	2	1	2	
指標5	志願者倍率	前期課程	倍	1.9	2.3	1.9	1.6	1.2	・5/1現在 ・志願者÷入学定員
		後期課程		1.0	0.5	1.0	1.0	2.0	
指標6	入学定員に対する入学者数比率(5年間平均)	前期課程	倍	0.98	0.96	0.94	0.96	0.96	
		後期課程		1.10	0.90	0.90	0.80	0.80	
指標7	入学者に占める一般入試入学者の比率	前期課程	%	72.7%	63.6%	71.4%	60.0%	55.6%	・5/1現在 ・一般入試入学者数÷入学者数
		後期課程		100.0%	100.0%	50.0%	100.0%	100.0%	
指標8	収容定員	前期課程	名	20	20	20	20	20	・5/1現在
		後期課程		6	6	6	6	6	
指標9	在籍学生数	前期課程	名	21	26	20	21	20	・5/1現在
		後期課程		7	5	5	4	5	
指標10	収容定員に対する在籍学生数比率	前期課程	%	105.0%	130.0%	100.0%	105.0%	100.0%	・5/1現在
		後期課程		116.7%	83.3%	83.3%	66.7%	83.3%	